

本模擬問題における問題等の著作権はすべて東京CPA会計学院に帰属します。無断転載・二次利用は固く禁止いたします。

第4問 (20点)

(株)中野CPA工業(本社岐阜県)は名古屋市に工場を有しており、工場独立会計制度により記帳を行っている。購買活動、販売活動および管理活動はすべて本社で行っており、工場では製造活動のみ行う。材料については直接工場内にある材料倉庫へ搬入するように指示しており、工場で製造された製品は、工場内にある倉庫に保管され、販売時に直接工場から得意先へ搬送される。本社工場間取引に内部利益の付加はない。なお、工場の元帳において設定されている勘定は下記のとおりである。

材 料	仕 掛 品	賃金・給料
製造間接費	本 社	製 品

下記の(1)~(5)は、当工場の11月における取引の一部である。工場および本社において行われる仕訳を示しなさい。ただし、勘定科目は、次の中から最も適切と思われるものを選ぶこととするが、工場で使用する勘定科目は上記に示されているものに限る。また、仕訳が無い場合、借方科目に『仕訳なし』と記入すること。

売 上	製 品	本 社	当座預金	現 金
減価償却累計額	材 料	工 場	預 り 金	賃金・給料
売 掛 金	売上原価	仕 掛 品	買 掛 金	製造間接費

- (1) 材料を@100円で600kgを掛購入した。購入に際し、小切手を振り出して材料副費4,000円を支払っており、これは購入原価に含めて処理をする。
- (2) 工場従業員への給与480,000円を現金で支給した。
- (3) 当月の減価償却費を計上した。工場にかかる減価償却費の年間見積額は6,000,000円である。
- (4) 当月に2,400,000円の製品が完成した。
- (5) 当月得意先に製品1,800,000円を3,000,000円で掛販売した。なお、製品は工場から直接納品した。

第5問 (20点)

山梨工業(株)では、同一工程で異種製品を大量生産している。製造原価の算定は実際組別総合原価計算を採用している。下記の【資料】に従い、答案用紙の組別総合原価計算表を記入しなさい。

【資料】

1. 当月生産データ

	製 品 K		製 品 F	
月初仕掛品	240 個	(80%)	300 個	(90%)
当月投入量	1,680		1,500	
合 計	1,920 個		1,800 個	
正常仕損品	40	(50%)	30	(60%)
月末仕掛品	220	(40%)	210	(70%)
当月完成量	1,660 個		1,560 個	

※ ()内は加工進捗度および仕損品の発生点を示す。

2. 月初仕掛品原価

	製 品 K	製 品 F
直接材料費	55,200 円	162,000 円
加 工 費	507,264 円	534,600 円

3. 当月投入原価

(1) 組直接費

① 直接材料費の当月消費額

	製 品 K	製 品 F
消費単価	660 円/kg	500 円/kg
当月消費量	560 kg	1,800 kg

② 直接労務費の当月消費額

	製 品 K	製 品 F
消費賃率	800 円/時	900 円/時
当月作業時間	2,364 時間	1,437 時間

(2) 組間接費

組間接費は直接労務費の 120%を各製品に予定配賦している。

4. その他

- (1) 月末仕掛品の評価は製品 K が先入先出法(月初仕掛品から仕損は出ないものと仮定する)、製品 F が平均法である。
- (2) 正常仕損費は度外視法により、正常仕損費の負担先は月末仕掛品の加工進捗度と仕損品の発生点を加味した上で決定すること。なお、仕損品に評価額はない。
- (3) 計算上端数が生ずる場合、解答時に円位未満を四捨五入しなさい。